

## 平成 22 年度第 4 回花巻市総合計画審議会（会議録）

### 1 開催日時

平成 23 年 1 月 17 日（月）午後 3 時 00 分～午後 4 時 51 分

### 2 会場

花巻市役所本庁舎 3 階 302・303・304 会議室

### 3 出席者

花巻市総合計画審議会委員 16 名

市側：大石市長、伊藤総務部長、亀澤政策推進部長、大山まちづくり部長、菊池生活福祉部長、出茂健康こども部長、高橋商工観光部長、佐藤農林水産部長、高橋建設部長、野崎業務管理課長、浅沼下水道課長、菊池消防長、藤井教育部長、熊谷大迫総合支所長、高橋石鳥谷総合支所地域振興課長、藤根東和総合支所地域振興課課長補佐、事務局：企画調整課（市村課長、松田課長補佐、菅野係長、古川係長、寺林上席主任、佐々木上席主任、粒針上席主任、鎌田副主任）

### 4 会議内容

#### 【1 開会】

（事務局：松田課長補佐） 審議に入りますまで、進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いたします。

はじめに、事務局よりご報告いたします。委員の出席についてであります。照井善耕副会長、高橋専太郎委員、藤沼弘文委員、今井洋一委員、高橋康文委員におかれましては、所用のため、欠席するとのご連絡をいただいております。なお、高橋専太郎委員の代理として、花巻農業協同組合企画管理部長の杉村始様にご出席いただいております。

したがって、本日の審議会は委員 20 名中 16 名の出席により委員の過半数のご出席をいただいておりますので、花巻市総合計画審議会条例第 4 条第 2 項の規定により会議が成立することをご報告申し上げます。

また、本日の審議会につきましては、花巻市審議会等の公開に関する指針に基づき、会議を公開することとしておりますのでご了承願います。それでは、審議に先立ちまして大石市長よりご挨拶を申し上げます。

#### 【2 あいさつ】

（大石市長） 皆様、大変お忙しいところお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

今日は第 4 回目ということになるわけですが、これは全くご案内の事だと思いま

すが敢えてちょっと今日お話をさせていただきたいですが、この花巻市総合計画審議会、その名の通りいわゆる諮問を私の方からいたしまして、それに対して協議、検討してその結果を答申としていただくという、審議会の通常の仕事という形になるわけですが、そういう意味から言いますと決して皆様方に本当に時間をいっぱい使って新たに計画を自ら作っていただくという、そういう場では無いわけでごさいます、こういうものはいかがでしょうかというものを示して、それで良からうとか、こういったものはこの方が良からうと、最終的に結論として、こちらのほうに示していただくという事になるわけです。

ですが、今の時代として、花巻市は出来るだけ多くの方から計画を作るに際してご意見を賜りまして、出来るだけそれを反映して、そしてみんなで作った計画ということで進めて行こうと大きな流れで思っております。いわゆる、協働参画の考え方でございます。ですから、たたき台、素案の中身についてご意見をいただいているということになる訳ですが、その政策1つ1つにつきましても、是非とも委員の皆様方のお考えを頂戴したいということになるわけです。ですから、この2つが含まれているという事で、まず、今までの審議会とは多少違ってきているという事をご理解頂きたいと思っております。

そのうえで今回は4回目ということで、素案について、現在、審議をされているわけですが、すでに地域協議会ですとか、そういう所での意見も頂いておりますし、現在パブリックコメントというものも平行して行っております。ですから、そういうような内容もこの素案の中に盛り込んだうえで最終的に原案という形でこちらの方で取りまとめ、そして、それをご審議頂くという事になってまいります。ですから、最終的には原案をご審議いただいて皆様方で良かれ悪しかれ決定をしていただくという、そして答申を頂くというのは最終的なお仕事ということになりますので、まず、それをお願い申し上げたいと思っております。ですから、本日はそういう意味でも、前回、素案という内容でお示しをして一応一通りの説明をさせていただきました。

しかしながら、その当日に資料をお渡しして説明いたしますから、ご意見を頂きましたけれども、まだまだ言い足りない事がいっぱいあるはずで、ですから今日は皆様方のご意見を頂戴するというような形になろうかと思っております。

そして、そのためにより内容を深めていただくというような考え方から、本日は前回と違って各セクションの責任者である部長が出席しております。ですから、内容を確認しながらご意見をどんどんと出していただきたいという想いであります。そういうことで、それを踏まえて全体の形を取りまとめて最終的に、原案として皆様方にお諮りするという方向になりますので、予めご了承をお願いしたいと思います。

私も皆様方のご意見を、直接お聞きするのが大事だと思っておりますけれども、申し訳ないですが中座いたしますので、担当セクションの部長がおりますので、確かめながら議論を深めて頂きたいと思っております。

前回にボリュームの割には時間的なものが大丈夫かというお話が出たということですが、

大目標は変えませんので、決して新たなものを作ろうとしているのではなく、色々と変わって来たというところがあるので、まず、前期4年間は終わりですから、後半の5年分の修正をかけてという、そういう今回の目的でございます。ですから、ここがこのように変わりましたという新旧対照表みたいな形だと分りやすいですけれども、区分の仕方を変えたものですから、それをやるとかえってごちゃごちゃになるということで、敢えてしませんでした。

今回の指標としては、変わったところは下線をアンダーラインをひいて、数値ですとかこれは無くしましたとか、これは新たにしましたとかというような形で、1つの最終的な形を見越したうえでの内容として皆様方に掲示をしてございます。ですから今までの提案の仕方、指標とは違いますので、そこは是非ともご理解を頂きながら議論を深めていただきたいと思います。

くどくなりましたけども決して新たなものを作り上げようというものではないということ、そうじゃないと誤解を生む場合もありますので、そういうことでよろしくお願いを申し上げます。では、中村会長さんよろしくお願います。

(事務局：松田課長補佐) 続きまして、中村会長よりご挨拶を頂戴したいと思います。

(中村会長) 皆さん、どうもこんにちは。今日、来るとき2つ考えて来ましたが、1つはこの委員会で今日やることは具体的な原案の文章そのものを、このように付け加えたら良いじゃないかと、そういう観点から、具体的な各課、代表の方たちですので、具体的な提言といった形でお話しいただければ、実り良いものになるのではないかと。

もう1つはですね、そうは申しましてもこの計画は現在と将来のための計画ですので、現在の枠の中に収まり切れない部分があるかと思えます。この部分は言葉でなかなか言いにくいだけでも、現在の制約もありますけれども、やはり将来のために、是非とも埋め込んでおきたい。そういったものを将来の新しい計画のために、礎になるような形でこの計画が作れたら良いじゃないかと、こんな観点からお話しいただければ幸いと思えます。

是非、活発なご審議よろしくお願いたします。

(事務局：松田課長補佐) ありがとうございます。それでは審議に入ります前に資料のご確認をお願い致します。本日の資料は次第、裏面に名簿を印刷したものの。この他に資料 5 - 1・5 - 2、資料 6、資料 7の3種類でございますが、欠けている資料はございませんでしょうか。それでは次第の3、審議に入らせていただきます。議事の進行、中村会長よろしくお願いたします。

### 【3 審議】

(中村会長) それでは早速ですけれども議事に入って行きたいと思えます。花巻市総合

計画の見直しが本日の議題となっております。ざっと事務局より配布の資料の説明をよろしくお願いたします。

(事務局) 説明(略)

(中村会長) はい、今日配布された資料についてのご説明をいただきました。最終的には前回12月に配布になりました、総合計画の見直し素案、この文章等々について今日改めてまたご意見をお伺いしようということになる訳ですが、今日まず配布された資料については、前回の意見等々の集約が1つ大きいですね。それから市内の市民分配所得の概念についての説明、総合計画の数値に関する成果指標、それから今回の計画での変更点の一覧表。まず、今日配布された資料に関して補足的な質問とかご意見とかございますか。

(中村会長) それでは、改めまして、市の総合計画の見直し素案という事について、前回に引き続きまして、皆様のほうから、こういう形にしたら良いのでは、こうしたらもう少しどうなるだろうという形でご質問等々、ご意見等々お聞きしようと思います。何かご質問ございませんか。あるいは前回にも聞いたけれども、まだ、聞き足りないとか、審議しておきたいということも含めて。

(小澤委員) 体育協会の小澤でございます。前回、配布された資料の中で「競技・生涯スポーツの推進」という75ページですが、最後の記載にありますけども「スポーツコンベンションビューローの設立が必要となっております」こういう記述があります。この目的は私も非常によろしい内容だと思っておりますが、例えば、総合支所長もお見えですし、体育協会の会長もおいでで、その中で若干言いにくい部分もございませけれども、合併した旧3町のスポーツ施設のメンテナンスがあんまり芳しくないということでございます。

例えば、花巻市の野球協会と議論している内容は、今年6月に軟式野球の天皇杯の大会が岩手県で開催されます。県内8つの球場を使ってやるわけですけども、そのうち2会場が花巻市、具体的には花巻球場と大迫球場。大迫球場は若干、専門的に言うたらパーフェンスというそうですが、ファールボールを追いかけていった選手がフェンスにぶつかっても怪我しないように、ゴムのマット、そういうものを更新して欲しい。設置されていますけれども、もう10年以上も経過してかなり磨耗しています。

また、去年は石鳥谷のアイスアリーナに安藤美姫さんと織田信成さんが合宿に入った。今年も安藤美姫さんが来たかたようですけれども、外国で競技していて練習中に男子の選手とぶつかって腰を痛めて、飛行機の名古屋便が無いものですから、新幹線で同じ姿勢で4~5時間、乗っているのは腰にまずいということでドクターストップがかかったらしいと。

いずれ、良い施設がたくさんありますが、石鳥谷のアイスアリーナにおきましても製氷

機がもたないかなという話もありますし、そういう意味で1回に全部やって欲しいということじゃなくて、計画的に修繕と言いますか更新と言いますか、そういう事をやって欲しいなというのが体育協会の職員としてのお願いでございます。終わります。

(中村会長) 今の点について市のほうで何か。

(大山まちづくり部長) 具体的な施設整備のことでご意見頂きありがとうございました。

75 ページに特化してお話しするとスポーツコンベンションビューローというものが、花巻市の特色を活かしたまちづくりを担うということの中で、交流人口の受け皿として色々進めてまいりましょうということで施設整備が重要なポイントになるであろうと思っていますので、「スポーツでまちづくり構想」というのを定めようとしています。

その中で施設整備というもの、維持補修を含めて、その必要性というのも充分理解しておりますので、貴重なご意見ということでこれからの計画的な施設整備も併せて進めるといふことにさせていただきますので、よろしく願いいたします。

(中村会長) 他にどなたかご意見ございませんか。

(押切委員) 押切でございます。私のほうの関係のことばかり申し上げて申し訳ございませんが、記述が足りないとか低調だと意見を言ったということがちゃんと総合計画に対する意見に記されておりまして、早く進めて頂きたいと思いますが、現実に今回の総合計画の見直しは5年、ほぼ5年までのものでございます。そうしますと、例えば文化会館も今後5年、ちょっと老朽化しているという話もありますし、それから、色々な設備でも対応できない所がたくさんあって、外注しなければならないというような現実もあります。それから、図書館は随分前から花巻市の賢治さんの郷としてはちょっと貧弱だとか古いか随分前から出ていますが、今後5年後にはもっともっと問題になるのではないかと思います。そういう具体的な件については、こういうのにあまり書かないものでしょうか。

それから、先ほども早池峰神楽のことも、お話がありましたけれども、そういったような伝統芸能も大変大事なことでございますが、旧花巻の場合は伝統芸能の神楽とか鹿踊りとかそういうグループは私どもの文化団体に入っていないで別団体になっております。それは前の会長からの引継ぎで市行政からの指導で伝統芸能は私どもの団体には入らないで別組織になっていまして、しかもそれは今では文化財のほうに入っているわけです。ところが花巻以外の旧3町では、芸術文化団体のほうの事業というのはほとんど芸能関係です。そここのところが、旧花巻の場合、伝統芸能は文化財課の管轄で、私どもの文化団体は地域づくり課の管轄です。ところが旧3町の場合は、もう文化協会の中に芸能が入っているということで、これは地域づくり課のほうの管轄、それを私どもはどう解釈していいのか、ちょっと迷っているとこなんですけれども、そういうことについてのお考えはどうでしょ

うか。

それからもう1つ、この間、新年で文化会館のほうにご挨拶に伺った時に、館長さんからちょっとお話を伺いました。それは以前には文化会館の審議会というものがございまして、私もその委員を務めたこともございましたが、何年か前からそれが無くなった。それは館長さんのお話では、上に計画を出したけれども最後にそれが切られてしまって必要ないということになったが、どう思いますかということでした。それで私もどうして文化会館の審議会は無くなったのか、その事を聞きたいと思っていまして、上に挙げたけれども、ある時点でもう必要ないということだった、それでも文化団体の事業というのは定着しているからこれで良いということではないでしょうかとのことでした。

しかし、世の中も変わっているし市民のニーズも変わっているのだから、今までこうだったからこれで良いというものではないのではないかと。それで元々そういう文化施設というものは市民の為の施設であるはずなのですから、そこに市民の声を反映するためにはやはり審議会は必要じゃないかなと私は思いますと申し上げました。

この点は、博物館も審議会があります。賢治記念館、新渡戸記念館もありますが、どうして文化会館はそれが無くなったのでしょうか。やっぱり市民の声を反映する場が無いということは私どもの立場からすると文化行政は重要視してないのかなと考えてしまいますが、その辺のお考えをお伺いできればと思います。

(中村会長) この素案からいくと77、78ページ「芸術文化の振興」、次のページの79、80ページ「文化財の保護と活用」、ここに関わる具体的な考え方はどんなことになるのかということの質問だったように思います。

(大山まちづくり部長) それでは、芸術文化、郷土芸能も一緒に説明させていただきます。

施設整備の関係のご質問でした。文化会館あるいは図書館の整備についての今5年間の計画の中でどのように盛り込んでいくのかということのまず第1点目ですけれども、実際に文化会館についてもかなり大規模改修が必要だということで認識しておりますし、実際にそういう調査もやっております。

それから図書館についても前回の総合計画の中でも検討をするということの中で、どういう図書館が望ましいかということと、合併に伴って4館の図書館が配置になりましたから、中央図書館としての役割をどうあるべきか、更には中央図書館としての機能と、それから以前から要望がありました500人、300人規模の中ホールのいわゆる施設整備も併せてどうかという提案をいただいております。この中で図書館の機能としては単独でいくのか複合でいくのかというようなことを盛んにやらせていただいておりますので、その辺の関係についての記述としては、78ページに個別の記述ということではなくて、計画事業の中の芸術文化施設整備事業という括りの中で検討をさせていただくということでの記述をしています。ということで課題が多かったり、施設整備を早急にしなければならないという

ようなことも出てくると思いますので、特定するとそういうことの縛りがありますので、大括りの中で議論をしながら、お諮りしながら進めたいということでこういう記述にしております。

それから伝統芸能の関係、早池峰神楽の関係、あるいは文化団体との関係、そういったものについては、押切委員さんのお話のように、大迫の場合、石鳥谷の場合、東和の場合、あるいは、花巻の場合とちょっと違った面が多いものですから調整をしながら進めさせて頂きたいと考えています。関連あるものについては関連させるような仕組みで進めたいということで、調整しながら進めさせていただきたいと思います。

それから文化会館の審議会ですけども、これは大変ご心配をおかけしました。というのは合併前からちょっと休止の状態で、文化会館そのものの運営審議会の役割として実際に企画運営、企画を皆さんの意見を聞いてやるというような役割を担っていました。ただ文化会館の機能としては貸館業務を中心にしていたということで、企画運営についてお諮りするような内容が充分整ってなかったというところもあります。その機能が、地域づくり課とか生涯学習振興課という中でそのような企画運営部門については担って頂いたところもありました。

そういうことで開かなかった事は大変申し訳なかったと思いますし、あとは運営委員会の全体的な見直しの中で検討して、やっぱり継続すべきだという観点の中で今後そういうことも更に立ち上げを行いたいと思っております。全部総ざらいをしてもう1回見直しをさせてもらっていただきましたので、頂いたご意見も踏まえながら運営委員会のあり方を再度調整したいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

(中村会長) 良いですか？

(押切委員) はい、ありがとうございました。

(齊藤委員) 素晴らしい総合計画が見直されるという時点で、市長さんのご挨拶にもありましたように是非この計画が絵に描いた餅にならないようにきちんと実施されていくのが委員、そして行政、みんなの願いだろうと思いますが、その時に安全、環境、協働、交流と4つの大きい視点でこれが進められている訳ですが、安全、環境、交流という点は非常に見える、数字的にも形的にも見える部分ですが、この大きな柱としている協働という部分は非常に見えづらいのではないかと思います。

素案の8ページになりますが、協働のまちづくりというのがいつも大きく掲げられて必ず出てくるわけですが、非常に読みやすく聞き慣れてしまって、分かったような、分からないような言葉ではないかと思います。まして、それを実行するとなると非常に困難なのは協働ではないかと思います。それで基本理念の中で「行政だけではなく、市民と一緒にあって」というのは文章的には非常に分かったような文章だけれども、これは非常

に難しい文章ではないかと思いますが、実際に実践するには、ここがきちんと理解されなければ、素晴らしい総合計画はやっぱり実践できないのではないかと思います。

それで、大きく 90 ページに、職員が意識改革していこうよっていうことを大きく取り上げたのは素晴らしい事ではないかと思いますが。と言うのは、やはりこの計画を一番きちんと理解して市民と一緒にやっていけるのは行政職員の皆さんではないかと思いますが。ですから、市民にこうですよ、ああですよということをきちんと理解をさせていただけるお力に行政職員の皆さんがなっただければ良いかなと思います。

これまで色々な事業が取り組まれて来た中で、うまく推進されている部署というのは、職員もやはり一市民として楽しく仕事をしている部署ではないかなと拝見しております。ですから、意識をきちんと、ただやれよ、やれよではなくて、うまく積極的に地域に入っていくように配慮されていければ良いのではないかと思います。

それから、観光面ですけれども、30 ページになりますか、やはり花巻の観光ということは、経済面にも産業面にも非常に大きなウェイトを占めているかと思いますが、せっかく会長さんもそうですけれども大学のある地域ということは、ものすごい強みだと思います。ですから、産学官民とよく言われますけれどもみんなが1つになって色々なことを取り組んでいくために、今言っている協働ということを中心にやっていくにはどうすれば良いのだろうということが、言葉では理解しているけれども、具体的には、どうすれば良いのか、何をすれば良いのかというのが分かりづらい大きな柱の1つではないかと思います。

ですから、この計画が実施されるにあたってこの後のお話になりますけれども、それぞれがどういうことをやれば良いという役割が明確にされていけば、良いのではないかと思います。その中で意識付けということで今日の新聞にも大きく載ってございましたけれども、男女共同参画、なかなか県外でも不徹底だということが出てございましたけれども、私は数字を追いかけることも必要かと思いますが、みんなが生きがいを持って暮らしていこうよというのがこの男女参画ではないかと思います。ですから配布資料 5-1 の 24 番の中で、皆さんが意見出されたように何か光るものが欲しいというのは産学官民にどこの部署もみんなが責任を持って自分たちが何かやって行きたいよという思いが込められたご意見ではなかったのかと思います。

それからもう1点ですけれども学習面で 72 ページになります。やはり協働でやっていくための意識づくりと言いますか、市民が自分は何をどういう視点でやっていけば良いのかという事で、この学習面ということも大事なことで、まなび学園の生涯学習の充実ということも非常に大切になっていくのではないかと思います。

(中村会長) 協働ということの具体化ということですね。協働という考え方の市民全体の共有をどう進めていくか、そんなところだろうと思います。

(亀澤政策推進部長) 政策推進部長の亀澤でございます。総合計画全体の流れのポリシ



ーみたいなところのご提言、大変感謝申し上げます。

正に当初の計画策定の段階から基本理念として「強くて優しいまちづくり」それから「市民参画・協働のまちづくり」ということを掲げまして、ご存知の通りまちづくり基本条例を決定し、そしてそれに基づく参画の手法、これについてはすでに実施し始めています。ガイドラインを定めまして。同時に今年からは協働のあり方、これについても委員会で検討を頂いている最中であります。具体的には、協働は全然やっていないということになりますと、やっているのが事実でございます。ただ、自助・互助・公助という段階的な部分から行きますと、やはり市役所でやるべきこと、あるいは皆さんで自発的にやっていただく事も含めまして一定の分類が出来るだろうということで、1つのガイドラインを定めようとして今ワーキングをしているところでございますので、ご提案のとおりそれらが明確になってお示しができて、一緒になって協働が出来れば少し目に見える形の成果というものがあるのではないかと思います。

そういった基本理念の考え方が、当然各分野にわたってやるべきものと私どもも考えてございまして、そういう意味では今回見直しのところに政策が5つに変わりましたとお話はしてございますが、その政策の中でも、まちづくりの政策、それを支える全体、基盤となる政策という形で、自立した地域づくりでありますとか、行政運営といったものを掲げさせていただいてということでありますので、ご理解いただいた内容に近づけていきたいと考えてございます。その一環に加えまして職員の意識改革、これはもちろん重要でございますので、これらも新たに加えさせていただいたということであります。加えまして、男女共同参画につきましても市民参画同様、施策として掲げながら専門部署を設けて推進してございますのでよろしくお願いいたします。

(中村会長) はい、よろしいですか。はい、ではどうぞ。

(宮澤委員) 市長さん中座される前に。全体として、質問の整理表にあることを蒸し返しますけれども、極めて堅実な数字であって、ちょっと夢が、努力の成果というものはどこに記述してあるかということを感じるので、その辺をどう見てらっしゃるか。何もしなければ飛行場の名古屋便はなくなり、札幌便、大阪便は減便、定員が少なくなって、そうすると、さっき小澤さんの話にあったように安藤美姫が来られないというような、スパイラルで低いほう低いほうへ行きかねないと思うので、市長さんの力で夢を、夢って言うか現実性のある夢をどこかにこのようになったという記述が、目標があって良いのではないかと、あって欲しいなと思うのですけれど、いかがですか。

(大石市長) はい、ありがとうございます。やっぱり何かやるためには夢というものがないと力が出てきませんから、非常に大切な考え方だと私も思っています。

特に産業関係の数値というのはある意味では設定しやすいし、成果として数値で捉えや

すいですから、比較して更に内容を検証して、そして新たな施策をつくってということを取り組みやすい分野であることは確かです。だけれども一方で、やはりその数値を上げるという事は非常に難しい、ある意味ではそういうことなのです。なぜならば経済行為といいますが、市行政が直接、経済行為に手を出せる施策というものは基本的に無いわけでありまして、民間の方が努力して下さって初めて結果として表れるものですから、気持ちは非常にわかるのですけれど、難しい分野だなという思いはありました。

私も過去に議員をやっていた当時、議会でやっぱり夢がないぞと、もっと数値を上げろと言ってつくった総合計画がありました。ところが全然達成しない。やっぱり立てた以上、実現したいというのが第一にありますので、そういう意味で下向きの先細りの計画というのは決して立てるつもりはありません。ありませんけれども、やはり実現しないと力が出てこない、意欲が湧いてこないということも現実であります。ですから、やはり実現可能な数値はどこだというのが非常に悩みました。黙って推計でいくと本当に低い数値です、全てが。ですから、そこにやはり施策としての考え方を盛り込んだつもりではあります。

ある意味目標ですから、もう少し高くしろというのであれば、それは出来ないわけではありません。ここは微妙なところでございます。最終的に委員の皆様方、そうは言っても、もう少しこれぐらいでも良いのではないかというのであれば、それは修正の余地があると思っております。どの辺で皆様方の意見として統一できるかというところが、ある意味で最終的な案なのかなと思っております。

ですから、私ども、事務方としての制御する上でなんとしてもこうだと思いきり頑張るつもりはありませんから、そこはどんどん今のようにご意見を出していただきたいと思っております。そういう考え方です、あくまでも。ですから、暗い気持ちでがんばろうということではないことだけのご理解をいただきたいと思えます。

(宮澤委員) 実現可能な数字だから、それを超えるように皆さんで努力しましょうと、お話を聞かせていただきました。

(大石市長) 非常に大変ですけれども、出した以上は頑張ります。よろしく願いいたします。

(宮澤委員) 市長さん部長さん皆さん出ていらして、今日はありがとうございました。

(中村会長) はい、では、岩淵さん。

(岩淵委員) 今日の資料の成果指標の資料 7の中の1 - 4 商業の振興。その中の2番「市内の商店で買い物をする市民の割合」とこれ新設になっているようです。目標達成が75%とありますけれども、これを目標達成するための裏づけというのが何かあるのかなと。

具体的に何か考えてらっしゃるから 75%という目標の数値が出たのかなと思いました。

それで、商店街活性化事業の中にも商店街の賑わいづくりの推進云々といつも出ますけども、全く生活していて商店街の人たちがどこまで危機感を持っていらっしゃるのか見えてこないです。だからその点ももっと何かあっても良いのではないかと。こういう風だと具体的に商店街の人たちからも消費者に向かって何かあっても良いのかなというのを感じますけども、第一にこの 75%の目標達成までに具体的に何かやろうと思っているから、このパーセントを出したというのがあればお聞かせ願いたいと思います。

(堀合委員) 関連して。最近、マルカンの食料品店、地下が無くなるとか、こういうことで、中心部の高齢者がどこへ行って買い物する気だという話が出ております。そしてこれをどこに持っていけば良いかという話もあって、私の方に来たので、一番困っていることを承知している人は誰かと、民生委員が少し問題提起したらどうかと、こういう話をしたところですよ。どこの課に行けば良いのだという話もあり、やはり、そういう情報をつかんだならば、行政もそれなりの話を出していかなければ協働にはならない。共にどうすれば良いか考え方を持っている人なのだから。

それから、この総合計画が光る、光らないという議論もあるが、私は施設はどこにでも造れば良いというものではダメなのだと。集積度を高めることを決して忘れてはならないと思う。なかなかそういうところが買われていない。集積度を高めて、利用の便や人の流れができて人を増やすとか、地域をきちっと明確にしておく必要があるのではないかと。それから観光関係、これだけ資源がありながらそれがうまく活用されている感じがしない。

これが誰の責任なのかといえば、誰かがやっぱりこうやろう、ああやろうという具体案を出していかなければ前へ行かない。それが何か欠けている。一生懸命やっただけではない。こうしないか、ああしないか、委員会がたくさんあるが、そういう話が出た例がない。やっぱりそういう意味で花巻市の将来を輝かしいものにするために、こういう会を作ろうとか、そんなことに絞っていかなければ従来の各種の政策がダメだとは言わないけれど、期待するのは無理なのではないかと思う。

そういう意味で個々のケースごとにそういうことを真剣に考える。それを正式に言っていくならば、私はそんな暗い数字ばかり言ってどうだろうかと思う。問題は、例えば今の若い者から言えば職がない、工業が一番やめていく、なかなかこの数字では就業率も上がらないわけで、産業振興のためにはこうやって、そして観光交流はもっと誘致して、そうするとこうなるというぐらいのものあって欲しいと思います。

(高橋商工観光部長) 商工観光部長の高橋でございます。只今のご意見につきましてお話をさせていただきます。

最初に商店街の振興の関係の新しい「市内の商店で買い物をする市民の割合」75%の根拠ということですが、花巻市は総合計画の進行管理ということで、市民の皆様にご意見を設

けましてアンケート調査を毎年同じ時期に実施してございます。その中の設問の中に買い物につきまして、「日常の買い物は身近な地域で出来ていると思いますか」という設問がございまして、「そう思う」「どちらかというと思う」という回答が73.9%という市民満足度が出てございます。

この総合計画の見直しにあたっては、商業振興の部分の指標といたしまして進行管理をするにあたって適切な指標が見出せなかった部分もございまして、この毎年行っている市民アンケートの部分を使いまして市民満足度を進行管理したいということで、現状73.9%を27年度の目標といたしまして新たに75%まで上げるという目標を掲げさせていただいたということでございます。

それから堀合委員のほうからいわゆる観光、雇用につきまして具体案を出して各委員会等で具体的に議論していくべきではないかという事でございますが、委員おっしゃる通りでございます。

例えば観光につきましては、合併して観光資源がいっぱい増えたということもございまして、「観光立市イーハトーブはなまき構想」という観光振興に向けての基本的な考え方をまとめさせていただいておりまして、関係機関にはその内容についてご意見を頂戴しております。この内容につきましては豊富な観光資源を再度見直すというか、見つめ直しまして、その中で緊急性のある施設、それから集客性の大きな施設、優先順位等を勘案して毎年毎年の実施計画のほうで反映させて計画的にそういう観光施設の整備をしていく、という方針を出してございまして、ただいま多くの施設の評価、見直しをしている段階でございますので成果につきましては機会をもってご紹介させていただきたいと思っております。

具体的にお話ありました雇用につきましては、花巻市だけの問題ではなく経済の低迷に伴って、なかなか厳しい環境にあるというのは重々認識してございます。それにつきましては、毎年の対応ということではなく、昨年におきましては高校生の新卒の就職率が非常に低いということもございまして、その年に限りまして市として雇用者の方へ採用していただいた人数に合わせて、直接ご支援をして雇用の確保をしたという状況もございまして、今後は、雇用情勢の環境も勘案しながら必要な施策をしていきたいというように考えております。

(中村会長) はい、よろしいでしょうか。皆さん一度に話したいということもあると思いますが時間も限られておりますので、質問のポイントをできれば整理して、こういう形でここを聞きたいと、そして回答いただくほうも、市として総合計画を作成した以上ここに力点をおいてやりたい、花巻市としてはこういったまちづくりをしたいという外郭的な方向でお話しいただければ議論しやすいと思います。

(平賀委員) 地域婦人団体協議会の平賀です。私たち女性たちの団体ですが、子育て支援とかあるいは高齢者の色々なサポートをするボランティア活動もしているのですが、こ

の総合計画は全ての面においても表を作って総花的にやらなければいけないというのは良くわかりますが、私の気持ちの中で花巻の目玉みたいな、花巻はこれにものすごい力を入れているというのが見えてうれしいという気持ちを持っています。

市長さん退場なさいましたが、市長さんが子育てに優しい花巻市をつくろうというのをおっしゃっていたので、その子育てをもうちょっと市民の私たちに「花巻は本当に子育てに優しいまちをつくっていくんだ」というのが分かるような特徴あるようなものにして欲しいなという気がします。こども課が出来てまなび学園のあそこも若いお母さんや子供達で楽しそうにしているところをみると「良いところをつくってくれた」と思いますし、これからの計画の中でたくさんの色々なものを書いていますけど、それをもう少し、花巻としての特徴みたいなものを、子育てをしたい人は花巻に移り住みたいと思うような花巻になったら人口も増えるのではないかなと思っています。これは希望です。子育てに関する色々なことに努力して欲しいと願っています。

(佐藤委員) 関連で佐藤です。65 ページ、こどもの城。宮野目空港の建物云々ありましたが、今どのような方向で向かっていますか。

(出茂健康こども部長) 子育てに関してのご意見でございますけど大変ありがとうございます。本当に子育てに関して花巻の特色、ポイントをしぼってやっていかなければというようなご意見と感じました。

ご案内のとおり子育てに関しましては色々な制度の中でやっているのが事実であります。市長のマニフェストの一つでもあります、こどもの城、一番のメインなのかなと、障がい者から健常者そういう関係、みんな一緒に、そしてまた幼児、それから保育、それらが一体となって全体的な相談体制となるような旗を上げて頑張っておるところです。貴重なご意見ありがとうございました。

そして佐藤委員さんのほうからは今どういう状況なのかとご質問ございました。こどもセンター、こどもの城構想、こちらの資料のほうにも書いてございますけど、今必要とする、これから必要となる年数とか人数、内容等の関係を現在詰めているところでございます。場所等に関しまして色々な想定で今頑張っている計画の中にどういう風に盛り込んでいくか、面積等を検討しているところでございます。

(佐藤委員) はい、分かりました。ただ、あそこは道路がどうなのかなと思うところはあります。

(熊谷委員) 大迫の熊谷です。先日からずっと全般的に見ているこの見直しですけれども、平成 17 年から 27 年度までの一応将来に向けた目的数値というところで全般的にはきれいに仕上がっているというように思います。ただ私ずっと疑問に思うところは、あまり

にも数字的な見通しというところで、こういうきれいな文章になっているのかなという気がします。というのは、職員そのものの教育とか、工業、観光、林業、非常に何度も言うようにきれいな文章で整っている、こういうように見えます。そこで職員も慣行的にも委員の皆さんからご意見が出たようですが、やはり現状をよく把握したということでの、こういう計画だとは思いますが、現状を勉強して実際見ていただいて、それを計画に活かしていただければというように思いました。

全般的に何回も申しますように文章的にはきれいに仕上がっている、ただもう少し具体的に、やはりこうすれば将来的にこうなるといふようなところで各委員さんからそれぞれ出たようですが、将来に向けた明るい見通しの計画であればよろしいのではないかと感じました。

(菅原委員) 関連です。石鳥谷地域協議会 12月24日、1月12日、二日間にわたって極めて細かく読ませていただき意見交換をしました。

大筋として今、熊谷さんからお話しありましたが、私どもとしては、石鳥谷地域協議会としては見直し素案について了承するという事で答申を出すことにしておりますが、感想として申し上げますと、石鳥谷地域の場合、ご承知の通り農村地域でございまして農林業に関わる事柄が大部分でございました。

今、国でも県でもTPPの関係がございまして混乱をしておりますが、私は若い頃農業後継者対策の第一線を担当したことがあります。何よりも大事なのはやっぱり担い手の育成ではないかなと思っておりますし、計画では20、21ページで担い手育成事業ということで表現されています。計画そのものについては賛成であります。ただ、この段階でお伺いしたいのは担い手育成事業の、これはキーワードだと思っておりますが、どのようなイメージをお考えでしょうか。実施計画のレベルで上がってきますので、何も今、殊更にしなくても良いのかなとも思いましたが、石鳥谷地域としての関心事でございましたのでお伺いしたいと思います。

(佐藤農林水産部長) 農林水産部長の佐藤です。ありがとうございます。

農業につきまして、先ほど菅原委員のほうから述べていただきましたけども、やはり大事なのは次の農業を担っていく方々を、農地も含めながら育成、協力しながら次の農業を担っていただきたいということで、施策におきましても、特にも担い手の方々がどういう次の農業をやっているかということですが、当然コスト的な部分も大切な事になってくると思っております。

1つには農業者の所得を向上するという事で、まずは、大きな目標としましては、形として数字として見る部分としては、所得の安定と向上ということで指標の第一に挙げさせていただきました。この目標とする部分は、農業者が維持して所得が向上していくということが担い手の中でも大きな要素なのかなと思ひまして、今回、農業者の所得向上とい

う部分を大きな設定にさせていただいておりますし、担い手にどういう形で農地を集積していくかということが大変かと思っています。

現在、担い手に対する農地の集積というものが総合計画の指標として 63%。3反歩とか5反歩の農地もありますけど、まず集積ということで掲げて目標を改めて確認するとしていきますし、今 1,000 ヘクタールを越えるような利用してない農地がございます。これを出るだけ使えるような農地にしていきたい、そういう農地を少なくしていくということを目標にしながら次の担い手の方々に耕作しやすく低コストで作れる農地をお渡ししていくというようなことと、まずは所得を上げるということを大きな目標としていることで、今回の計画の見直しの大事なところだと思っています。

(菅原委員) わかりました。

(中村会長) まだ、発言されていない方。

(小原委員) 東和地域協議会の小原です。この総合計画の見直しというのは、ご存知のとおり地方を取り巻く環境の変化だと、その原因としては人口減少と少子高齢化だということで見直しをするということですが、そうしますと人口が減ることによって、色々な数字がマイナスになってきます。極端なことを言いますと自主財源の比率は 40~50%下がるという非常に暗い数字ばかり見えるので、やはり花巻市として何か光るもの上げてくださると、平賀委員も先ほど申し上げましたとおり、そうだろうなと私も思っているところでございます。

やはり花巻市長が岩手 1 ということ掲げている訳でございます。この中で岩手 1 はどれかと、どのような目標でいくのかと、こういうところが皆さんに分らないと一向に中身の無い話になってしまうと思います。市長が掲げている岩手 1 を大きく掲げていくということが一番の大事な事ではないかというように考えますが、このようなことでこうやりましたということがありましたらば、お話し願えれば私も納得できると思います。

(中村会長) 考え方ですね。計画に 1 というものを具体的な形で盛り込むのか、あるいは目標を設定するのか、この辺はどうでしょう。

(亀澤政策推進部長) 光るところという中で、岩手 1 の対応ということでございますが、いわゆる数字で示す岩手 1 とあるいは日本一といったものも文言の中にはあります。ただ、そういった中身のことで整理というよりは、このまちに住んで、住み続けたいという考え方の根本にあるのが岩手 1 宣言ということと伺っています。従いまして、数字で1等賞だからそれで良いということだけに捉われたくないという気はございます。

きらりと光るというお話の部分で申し上げますと、事情変更に伴いまして新たに記述し

た分、例えば先ほどの「こどもの城構想」にいたしましても、ある地域を前提に検討した結果がございますが、色々な事情で変更したということもございまして、それを具体的にやっていきたいと思いますといったこと、あるいは文化団体の関係からご質問ありました文化会館ですとか、図書館ですとか施設整備の部分、そういったものは具体的な話としては実施計画のローリングといったところで出てくるかと思いますが、方針あるいは方向としての姿というのは、繰り返しとなって恐縮ですが素案の10ページのまちづくりの施策の部分新たに組み直しまして、政策を1つの流れの部分、いわゆる産業、暮らし、人づくりという部分の大きな柱の部分、そしてその部分をトータルで支える意味での地域があり、それから自立した地方都市の花巻市がある、といった括りの部分で現状ですと6つの政策を今回5つの政策に分けましたということになります、ご理解いただきたいと思うところはそういった努力をさせていただいていること。それから分りやすく、仕事とか暮らしでありますとか人づくりと分けてしまったものですから、後ろのほうに大きな5つの推進の構想を掲げさせていただいたというところで、例えば、これまでですと観光立市として花巻市を頑張っていきたいと思いますといったような事は、この中には書いてありましたが、特化して出した時は多分なかったと思いますので、そういう意味では一体となって考えていただければというようには考えてございます。

繰り返しになりますが、指標自体はなかなか上げにくいというのが現実であります。ただ、それも皆さまのご意見の中にやはり目標は高く持つべきだというご意見が仮にあるといたしましたらば、私どもではそれをお伺いしまして再検討させていただくというように考えてございます。

(岩淵委員) まちづくり政策の中で、1つとなっています「地域で育む子育てと教育で心豊かな人づくり」に関連するわけですが、今年、特に雪が多くて大変な思いをしている人たち、たくさんいらっしゃるわけです。高齢者になればなるほどです。その中でいつも思うのですが、地域の子供たちが近所の何でも関わっている子が少ないと聞きます。ある先生とお話した時に地域に子供たちが関わりを持つには保護者の了解がなければなかなか難しい、今の親たちはということを知りました。福祉教育というのは非常に大事なことですけれども、全体に教育、教育というものを掲げる前に、やはり地域を、子供たちを見て育つというところに、自分たちがどういうところで役に立つかというところをやはり関わっていかねばならないのではないのかなと、それが自然の教育でもあるのかなと。ある程度大きくなってから教育、教育と言われても意外とピンと来ない。だから自然にそういう心を持って成長してもらえれば良いなということをつくづく思います。

地域によってはスノーバスターズというものを作って子供たちもやっているというのも聞きましたけど、まだまだ少ないかなと思うので、これを是非、出来るのであれば花巻市全体として学校とも一緒になって地域を見ようということを進めてもらえれば、非常に地域も変わってくるのかなと、親も変わる子供も変わる地域も変わる、そういうように感じ



ます。

(齊藤委員) 関連でございますけども、ある子供のスポーツ大会、全国大会でしたけれども、行われた時にボランティア団体とか、若い人たちとか、子供とか、高齢者たちが協力したかった、関わりたかったという大きな声がありました。

終わった後だったので非常に悔いたのですが、観光のチャンスもあったのにとということで、岩淵委員からも言われたように、地域とか教育とか色々な関係があるのに、もったいない大会だったという事がありました。

原因を考えた時に計画、立案からの問題ではなかったかなと思います。それは当初申し上げましたように行政とのつながりを感じないということです。せっかく今日トップクラスの皆さんがお揃いになっているので是非職員たちが意欲をもって事業を推進するために、あそこと手を組もう、ここと手を組もう、例えば観光だったらボランティアに、職のない若者たちにもアルバイト的に頼もうかというなかで、人とのつながりや、見えなかった能力も発見できるかもしれないので、もうちょっと行政の横のつながりということを大きくテーマとして計画が進められたらと思いますのでよろしくお願いします。

(中村会長) 色々な意見が出ましたけれども、予定した時間が5時、皆さんもっと意見されたいことがあったと思いますが、全体に、産業振興ということ、それから生活の安心安全と子育てということ、それから地域の協働を進めていくという大きな柱のこと、全体の意見としては、花巻市が進めていこうとする方向に関しては皆さん基本的に賛成していると思います。それでは具体的にこういう形で重点的に取り組む、もっと本当は取り組んで欲しいけれども、こういう気持ちがなかなか届かないように思っていると、それがいろんな形で今日出た意見だと思います。

その辺をどう汲み取るかということが行政に求められている一番大きいことなのだろうと感じます。環境もそうです。子育てもそうです。それから、農業、観光、学校についてもみんなが思っていることはまったく同じだけれども、それを具体的に実行するとき核となるのがどこであってどういう方向に進もうとしているのか、市民の声がどれほど取りあげているのか、そういうところがなかなか見えないということで色々な意見がでてきたと思います。

それをできるだけこの総合計画の中に取り込んで欲しいと、市民の声を積極的に市として取り入れて行政を進めていくその枠組みづくり、この辺がなかなか見えないということもひとつあるのかなという感想です。

あと、各分野に産業、子育て、生活の安心安全、いろいろご指摘がありました。それから市民の協働、参画を進めていくとか、様々な問題点があったと思いますが、この計画書の第4章基本計画というところにそれぞれ第1節、第2節、第3節、第4節、第5節についてご意見なりご質問なりがあれば、市のほうから改めてお考えを述べていただくように

しようと思います。総括的な形で少しご意見なりご質問なりをお伺いしたいと思います。

あるいは市のほうから補足的な説明があればお話しいただきたい。例えば国際化への取り組みの分量がこれでいいのかなという気がしないでもありません。それから高等教育という括りがひとつ。人材育成するということに、子どもというだけでなく、やはり高校生、大学生それから社会人の人材育成ということへの取り組み、具体的にどうなのかとそんな気もしないでもありません。ここに書かれていること以外でも、取り組んでいることは多々あると思います。

次回の委員会 2月の上旬に予定されていますけれど、その時は最終的な計画原案みたいなものが提出され、2月の議会に計画書を諮る、そういう段取りになっているようですから自由に意見が言えるのは今だけとということになります。

(高橋委員代理 杉村部長) せっかく農協から来ていて一言も無いと何も持っていないのかと言われそうなので、立場上、普段は私もあちら側にいる人間で、あまり偉そうなことは言えませんが、ただ細かい点ではなくて大きな観点から、今も農協と市役所の農林水産部がワンフロアという形で農協のほうに来ていただいて農協の営農部門と特に密接に動いていただいております。ここ数年になりますけれども、これは功を奏して色々な面で、すぐ動かなければいけないときと、すぐ動いてもらえるということで、そこは良い状況になっているのではないかなという風に思っております。

ただ1つだけ申し上げたいのは、組合長が常日頃、いずれ農家の皆さんが元気でなければ花巻も元気をなくすと、やはり農家のみんなが元気でなければだめだと、よく申しております。長ということもあろうかと思いますが私も個人的にそう思います。ということでこういう総合計画等作成されるにあたって、我々農協も頑張りますが、行政の面でも農家の皆さんが元気になるような方策等示していただければ良いのかなという風に思います。

(押切委員) 先ほどのご意見と関連しますが、先日大迫の早池峰神楽の後援会の一人という方にお目にかかりまして色々内部事情と申しますか深刻なお話を聞きました。

早池峰神楽がユネスコの無形文化財になったということは大変大きく報じられて、早速全国大会という観光に結びついてしまいましたが、そういう観光ばかりに走るとするのは自分たちの目的じゃないと。500年も600年も続いてきた、それは、もちろん踊り手の方々もそうですけど、周りの人たちのそういうサポートがあって、そして踊る方たちの生活、農業の方もあれば、林業の方もあって、そういう生活の基盤があって地域の人たちの支えがあって大変困難な戦争中のようなときでもお母さんが太鼓をたたいたり、家族で支えあってきた500年あるいは600年である。単なる観光の材料にされては困るというようなお話を伺って私もそうだなと。

ユネスコの世界遺産という意味はそういうところではないです。人類の遺産というか文化遺産、これからはハードパワーじゃなくてソフトパワーの時代だと言われているときに、

非常にユネスコの世界遺産というものは大事にしなければならないことですし、その方たちの生活基盤というのが農業であり林業であり、そういう基盤をセーブしなければあいうものは続かないと切々と話されまして本当にそうだと、観光ばかりじゃなくてそういうところにも目を向けていかなければいけないのだということを私は声を大きくして話したいと思います。

（佐藤農林水産部長） 今、押切委員のほうからいただいた声は、我々、農林業のほうの分野でも大切な分野だと思っています。農村景観を守るということも1つの大事なところでございますし、先ほど菅原委員さんのほうからおっしゃっていただきました担い手ということにつきましては、農地を大事にする部分とすれば、耕作を続けながら地域を守っていくという方もいないとなかなかうまくいかない。土地を利用する農業だけでなく地域・地域の参加主体を利用しながら続ける農業という基盤も大事にしながら、担い手の部分はなお一層大事になってきているものと思っています。

今回計画の見直しのなかでは、農業と林業という部分をあらためて明示させていただいて、農山村の景観を維持しながら生活も支えていくというような担い手の部分も大事にしていきたいと思っているところです。

（中村会長） いろいろな意見、質問が出ましたけれど、事務局では今日の議事録を、計画の具体的な文言という形でできる限り、反映できることは反映させるというように思います。今日の段階で取りまとめされる政策推進部長から一言ありますか。

（亀澤政策推進部長） 長時間にわたり、ご意見を頂戴しありがとうございます。本日示した資料のとおり、現段階での私どもの考え方を整理したものはございます。これは正に途中経過でございますので、本日お伺いしたものもあらためて検討させていただきたいと思っております。

さらに、今お話いただいたことも踏まえ、最終的に素案から案という形でお示ししたいと考えておりますし、毎年3カ年ローリングしている3年間分の実施計画を作成しているわけですが、その見込みの事業もお示しできるようにしたいと考えております。5年間ではなく3年分ということで近々になる部分もありますが、ある程度は具体的な分野がすし見えるのかなと思います。

いずれパブリックコメントがもう少しで終了しますし、それらを総合のご意見を頂戴して内部で検討、議論して成案にしたいと考えております。よろしく申し上げます。

（中村会長） 一言を加えますと、今回も前回も感じたことですが、みなさん消化不良で終わっていると思います。時間が少ないこともありますし、具体的に話しにくいところもあって、なかなか腹にぴったりとした形で帰れるということになっていないと思います。

逆に言えばそのところをよく考えていただきたいと思います。

ここに書かれていることは、基本的に誰も思っていて誰も実現したいことだと思います。例えば、合併したけど、花巻市とその周辺に差があるという言葉にならない思いもあると思う。それを言葉で言えない分、市はその気持ちを受け取って政策を進めてほしいという気持ちがあると思う。それはどの分野でも同じこと。書けることには限りがあると思いますが、市民の参画・協働、市民主体というのであれば、みんなの声を取り入れる形で進めていく、その思いを各分野で反映した形の論文にしていただければ良いかと思う。

抽象的な話で申し訳ないが、この辺を工夫していただければと思う。ぜひお願いします。

#### 【 4 閉会】